

産地戦略

実施期間 令和5～6年度

実施主体 大館北秋田えだまめメガ団地協議会
都道府県 秋田県
対象地域 大館市、北秋田市
対象品目 えだまめ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	● 温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

本地域は古くから複合経営に取り組んでおり、えだまめ、やまのいも、きゅうり、アスパラガス、ねぎ等が産地化されている。近年は農業基盤整備事業の活用により高収益品目の導入が進み、えだまめ、ねぎ等の土地利用型品目が拡大している。特に、「えだまめ」については、大規模農業法人を主体に園芸メガ団地整備事業を活用した作付拡大が進んできた。そうした中、近年では、生産コストの増加や労働力の不足等が喫緊の課題として対策が求められており、また、現在の肥料価格高騰により地域では減農薬・減化学肥料につながる技術に注目が集まっている。

そこで、生分解性マルチの活用による農薬使用回数の削減や有機質肥料（緑肥、汚泥肥料）の活用による化学肥料の削減といった環境に配慮した栽培技術と、自動操舵システムや農業用ドローン等の省力化に結びつく技術の検証等に取り組むことで、えだまめ生産の省力化を図りつつ、化学農薬と化学肥料の低減を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	早生	播種	中耕培土 病害虫防除		収穫								
	中晩生		播種	中耕培土 病害虫防除		収穫							
技術名	早生	播種機	トラクター ブームスプレーヤー		収穫機								
	中晩生		播種機	トラクター ブームスプレーヤー		収穫機							

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	早生	播種 マルチ張	中耕培土 病害虫防除		収穫	マルチ すき込み							○自動操舵システム 播種：耕起・畝成形・マルチ・播種同時作業機もしくは畝成形・播種同時作業機 中耕培土：機械除草、乗用中耕培土機
	中晩生	き緑 込肥 みす	腐熟 期間	播種	中耕培土 病害虫防除		収穫						
技術名	早生	自動操舵・生 分解性マルチ・有機質資 材②		自動操舵 農業用ドローン		収穫機							○有機質資材 播種前・収穫後（有機質資材①）： 緑肥 播種時（有機質資材②）：汚泥肥 料、バイオ炭
	中晩生						資材 ① 質						
		有機質資 材①	自動操 舵・有機 質資材②	自動操舵 農業用ドローン		収穫機							

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R4	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	190	▶ 190	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 47.5	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	▶ 47.5	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 47.5	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要
〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬を中心とした雑草防除	▶ 生分解性マルチの活用（早生品種） 機械除草の活用（中晩生品種）	・化学農薬（除草剤）の使用回数の削減 ・マルチ剥ぎ取り作業の省力化
環境	化学肥料を中心とした施肥体系	▶ 有機質資材（緑肥、汚泥肥料）を活用	・化学肥料の使用量の削減
環境	バイオ炭の導入なし	▶ バイオ炭の農地施用	・温室効果ガスの削減
省力	耕起・畝成形・マルチ・播種作業を分けて実施	▶ 自動操舵システムを搭載した耕起・畝成形・マルチ・播種同時作業機の活用	・自動操舵システムによる作業精度の向上 ・同時作業による省力化
省力	畝成形・播種作業を分けて実施	▶ 自動操舵システムを搭載した畝成形・播種同時作業機の活用	・自動操舵システムによる作業精度の向上 ・作業効率の向上による省力化
省力	管理機又はトラクターにより中耕培土作業を実施	▶ 自動操舵システムを搭載した乗用中耕培土機を活用	・自動操舵システムによる作業精度の向上 ・作業効率の向上による省力化
省力	ブームスプレーヤーによる防除作業	▶ 農業用ドローンを活用	・作業効率の向上による省力化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学農薬（除草剤）の使用回数の削減（回）	3	▶ 2	早生品種：生分解性マルチにより、全面土壌散布 1 回を削減、 中晩生品種：中耕除草により、茎葉散布 1 回を削減
環境	生分解性マルチを活用した剥ぎ取り・回収作業工程の削減（工程）	1	▶ 0	
環境	有機質資材（緑肥、汚泥肥料）（ha）	0	▶ 47.5	
省力	耕起・畝成形・マルチ・播種同時作業機による作業工程の削減（工程）	4	▶ 1	早生品種
省力	畝成形・播種同時作業機による作業工程の削減（工程）	2	▶ 1	中晩生品種
省力	自動操舵システムを搭載した乗用中耕培土機による省力化に取り組む面積(ha)	0	▶ 47.5	
省力	農業用ドローンを活用した栽培面積（ha）	0	▶ 47.5	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

関係機関の開催する講習会などで検証技術の導入効果を周知し、グリーンな栽培体系（環境にやさしい栽培技術、省力化に資する技術）の普及を進め、協議会員を中心に現地指導を実施することで、取り組む面積の拡大を図る。

関係者の役割

関係者名	園芸メガ団地	秋田県北秋田地域振興局 農林部農業振興普及課	大館市産業部農政課 北秋田市産業部農林課
役割	【令和7～11年度】 ・グリーンな栽培体系の実践 ・各種作業機械の導入検討	・技術指導 ・情報発信 ・グリーンな栽培体系マニュアルの見直し ・産地戦略の実績取りまとめ	・情報発信 ・支援方策の検討

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積（R11）（ha）	備考
みらくる 草刈るチmid.(NMO-3)	中耕除草	47.5	